

Interview

# 村治 佳織

KAORI MURAJI

[ギター]

新イタリア合奏団

イタリア最高峰の  
アンサンブルと紡ぐ『四季』

日本が世界に誇るギタリスト村治佳織が  
久々に所沢ミュージズに登場。ヨーロッパ  
屈指の名門合奏団と、ヴィヴァルディ  
『四季』のギター版に挑む。聴き手を  
魅了してやまない名ギタリストの  
“いま”について話を聞いた。

いつもそばにあったギター  
弟・奏一が存在

父がギター教師なので生活のなかにギターも当たり前のように存在し、言葉を覚えていくのと同じようにギターの音も常に聴いて育ちました。お箸をいつの間にか使えるように、気がついたときにはギターを弾いていた。4歳のときに弟の奏一が誕生しましたが、育った環境は私とまったく一緒。ギターリストとして気持ちを分かち合える弟の存在は、いまも大変心強いです。小さい頃は練習場所の取り合いで小競り合いはあったようにも記憶していますが…(笑)。コンクールに参加するときは、私が中学生部門であれば弟は小学生部門というように4歳差が功を奏し、別部門でエントリールできたのがよかったと思います。姉弟で同部門だったら、火花が飛んでいたかもしれませんね(笑)。いまでもお互いの良き理解者で共演も多いです。いつか弟と一緒に所沢ミュージズで演奏できたらと思っています。

友人、恩師、パリ留学時代

父にギターを習った後、10歳から約8年間は福田進一先生に教えていただきました。パリのエコール・ノルマル音楽院では、アルベルト・ボンセ先生に師事しました。パリでは大萩康司さんと同門となり、音楽を学ぶ同年代の友達が初めてたくさんできました。日本では音楽とは関係のない中学・高校に通いましたので、将来就きたい職業はみんなバラバラ。音楽を志す友人たちとできる話、それぞれの

違う目標を持つ友人たちとできる話はまったく違い、視野を広く保つことができ、友人たちは私にとっては宝です。

スペインでの体験—人生の宝物

20代前半でスペインを訪れ、その魅力を肌で感じる事ができたことも人生の宝物です。最近、出版された濱田滋郎先生の『約束の地、アンダルシア』(アルテスバブリッシング)は本当にお薦めさせていただきたい名著です。私が長く滞在したのはマドリッドですが、スペインと一口にいても、東西南北・中央と場所によって文化も異なります。「スペインの魅力！」は一言では表現できませんが、目としてアクセントの効いたスペイン語、人々の開放的な雰囲気でしょうか。私も影響を受け、笑顔のときの口の開け方が大きくなりました。ギターの音も明るくなったと何人もの方に言われました。私は東京の下町育ち。人と人の距離が近いところがマドリッドで出会う人々の気質にも通じるころがあり、とても居心地が良かったです。

「頑張らないことを頑張る」という哲学

1993年のデビューから、留学、海外レールへの移籍など環境は変化しましたが、「ギターの素晴らしさを聴いてくださる方のお心にお届けする」これが私の純粋な願いです。若い頃は頑張る気持ちが強く、肩に力が入ることも多々ありましたが、ギターは繊細な楽

器ですから、力が入ってしまつては繊細さがうまく表現できません。いまは、肩肘はらずに「頑張らないことを頑張る」ことも人生経験を重ねるにつれてできるようになった気がしています。ステージに立てることへの感謝。ギターを弾けることへの感謝。聴きにいらしたお客様への感謝。感謝の気持ちで緊張を包み、「頑張る」というより、あたたかい気持ちでステージに立つことができているのを実感するときに、以前の自分との変化がわかります。

新イタリア合奏団との共演

10代後半にヨーロッパ・デビューで演奏したのがトリノでした。良い思い出もたくさんあり、イタリアも好きな国の一つです。まさかヴィヴァルディの『四季』を全曲弾くことになるとは想像していませんでしたが、新イタリア合奏団との共演が実現しても楽しみです。今回はイタリアのリュート奏者カンタルピさんが原曲に忠実にアレンジしてくださって、演奏不可能に思われるところもなく(笑)、いま楽しんで練習を重ねています。全世界が混乱の渦に飲み込まれているいまだからこそ、四季の美しさを表すこの曲に特別な想いで向き合えるのではないかと思います。これまで所沢ミュージズでは、大中小すべてのホールで演奏しましたが、例えばバッハをじっくり聴きたいだくりサイタル、ギターとほかの楽器のコラボ、もしかしたらエレキギターで1曲弾いてみたい?! アイデアは湧いてきます。まずは9月、久しぶりにアークホールで演奏するのとても楽しみにしています。

## 新イタリア合奏団 村治佳織 [ギター]

9月19日(土) 14:15開場 15:00開演  
アークホール  
料金◆S席:¥5,000 A席:¥4,000  
曲目◆モーツァルト:  
ディヴェルティメント ヘ長調 K.138  
モリコーネ:  
映画『ニュー・シネマ・パラダイス』より  
モリコーネ:映画『ミッション』より  
ヴィヴァルディ(カンタルピ編):  
ギター協奏曲集「四季」ほか  
※未就学児の入場はご遠慮ください。



所沢ミュージズで共演するヨーロッパ屈指の名門新イタリア合奏団



2019年12月サントリーホールでのソロ・リサイタル。感謝の気持ちでステージに



スペインの魅力が詰まった名著・濱田滋郎『約束の地、アンダルシア』



1997年、パリの留学時代。オペラ座(ガルニエ宮)の前で



1997年、ボンセ先生と(エコール・ノルマル音楽院で)



4歳下の弟・奏一は、同じギタリストとして気持ちを分かち合える大切な存在



10歳の頃の発表会  
6歳の奏一と父と3人で合奏